



## 分科会 9 専門性を兼ね備えた薬剤師をめざす

10月7日(日) 13:30～16:00 第17会場(ホテルクラウンパレス浜松 3F 松の間C)

W-09-01

糖尿病療養指導士

あつたこういちろう  
厚田幸一郎

北里大学薬学部臨床薬学研究・教育センター

はじめに

糖尿病の患者数は年々増加の一途をたどり、重症合併症も増加している。これに対応して糖尿病治療は多様化し、とくに、糖尿病の薬物療法はインクレチン関連薬の登場により大きな変革の時期を迎えた。一方、医療法の規定に基づき、各都道府県は5疾病(糖尿病、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、精神疾患)、5事業(救急、災害、へき地、周産期、小児救急を含む小児医療)および在宅医療にかかわる地域医療計画を策定することとなった。その中で医療連携が重要視されており、この計画の一環として、それぞれの地域で糖尿病の地域連携パスが導入または計画されている。この基準に沿って、糖尿病専門医と病院または診療所の医師が連携をして、糖尿病療養指導士、看護師、管理栄養士、薬剤師などの医療スタッフが協力しながら糖尿病患者を診ていく体制づくりが望まれており、地域における糖尿病診療の連携体制を構築することが喫緊の課題となっている。このような状況において、糖尿病領域を専門とする薬剤師の育成は重要課題である。今回、わが国で糖尿病のエキスパートとして認定されている糖尿病療養指導士について述べる。

1. 日本糖尿病療養指導士誕生の背景糖尿病は自己管理が重要な慢性疾患であることから、患者教育(療養指導)が治療の基本となる。糖尿病患者数の増加に対応するためには、糖尿病療養指導従事者の質的向上と人員の充実が不可欠である。米国、カナダ、オーストラリアなどでは1970年代の初頭より、糖尿病療養指導従事者の専門性と認定について検討され、1986年には資格としてCDE(Certified Diabetes Educator)制度が発足した。わが国でも、2000年に日本糖尿病学会、日本糖尿病教育・看護学会、日本病態栄養学会が母体となって、日本糖尿病療養指導士認定機構(CDEJ)が発足した。
2. 日本糖尿病療養指導士(CDEJ)の受験資格と業務CDEJの受験資格は第1に、国家認定医療職(看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士)のいずれかの資格を有すること。第2に、一定の条件を満たす医療施設で継続2年以上糖尿病療養指導の業務に従事し、通算1000時間以上の療養指導経験があることである。この中で一定の条件を満たす医療施設とは、熟練した療養指導ができるように、常勤または非常勤の日本糖尿病学会専門医が勤務する施設または日本糖尿病学会の会員である医師が常勤で勤務している施設と規定されている。そのため現状では病院または診療所に勤務する薬剤師にのみ受験資格がある。認定試験は、年1回実施され、試験方法は筆記試験と受験願書とともに提出した療養指導自験10症例の書類審査である。本資格は5年毎に認定更新を必要とする。第1回から現在までの認定試験による資格取得者の総数は16,363人で、薬剤師は2,453人で全体の約15%を占めている。一方、東北信、西東京、神奈川、山梨、新潟、筑豊佐賀、島根など全国各地で、独自の地域糖尿病療養指導士制度(LCDE、すなわちLocal-CDE)を施行している地域も散見される。LCDEは薬局薬剤師にも受験資格があり、多くの薬局薬剤師がLCDEとして活躍している。今後はCDEJとLCDEの連携した活動が期待される。
3. 糖尿病療養指導士における薬剤師の役割薬剤師として最も重要な療養指導は服薬指導である。薬剤師は適正で安全な薬物治療を支援するためにも薬剤情報を把握した上で、薬剤選択のチェックに加えて副作用および使用上の注意点などに着目した薬学的管理を実践すべきである。さらに、薬物療法のみならず、食事、運動、そして生活習慣全般に至るまで幅広い療養指導の実践・向上に努めることが肝要である。また、近年、患者自身の医療への参画が重視されるようになり、療養指導において患者をエンパワーメントすることが求められている。エンパワーメントとは自己管理能力を引き出すことであり、患者の判断によって治療方針を決めることにある。一方、インスリン注射手技や血糖自己測定の手指導など徐々に薬剤師の行動範囲も広がりをみせている。
4. 日本くすりと糖尿病学会の設立 本年1月4日に我々は「一般社団法人日本くすりと糖尿病学会」を設立した。本学会の主たる目的は薬局薬剤師、病院薬剤師と基礎薬学研究者が連携し、薬剤師糖尿病療養指導士のスキルアップと育成に努めることである。日本糖尿病学会など関連学会と連携を取りながら本学会の目的を遂行していく所存である。本学会の趣意に賛同いただき、多くの薬剤師が入会・参加されることを祈念している。学会の詳細については学会ホームページ(<http://jpds.or.jp>)を参照されたい。